

# 瀬戸内海風景論

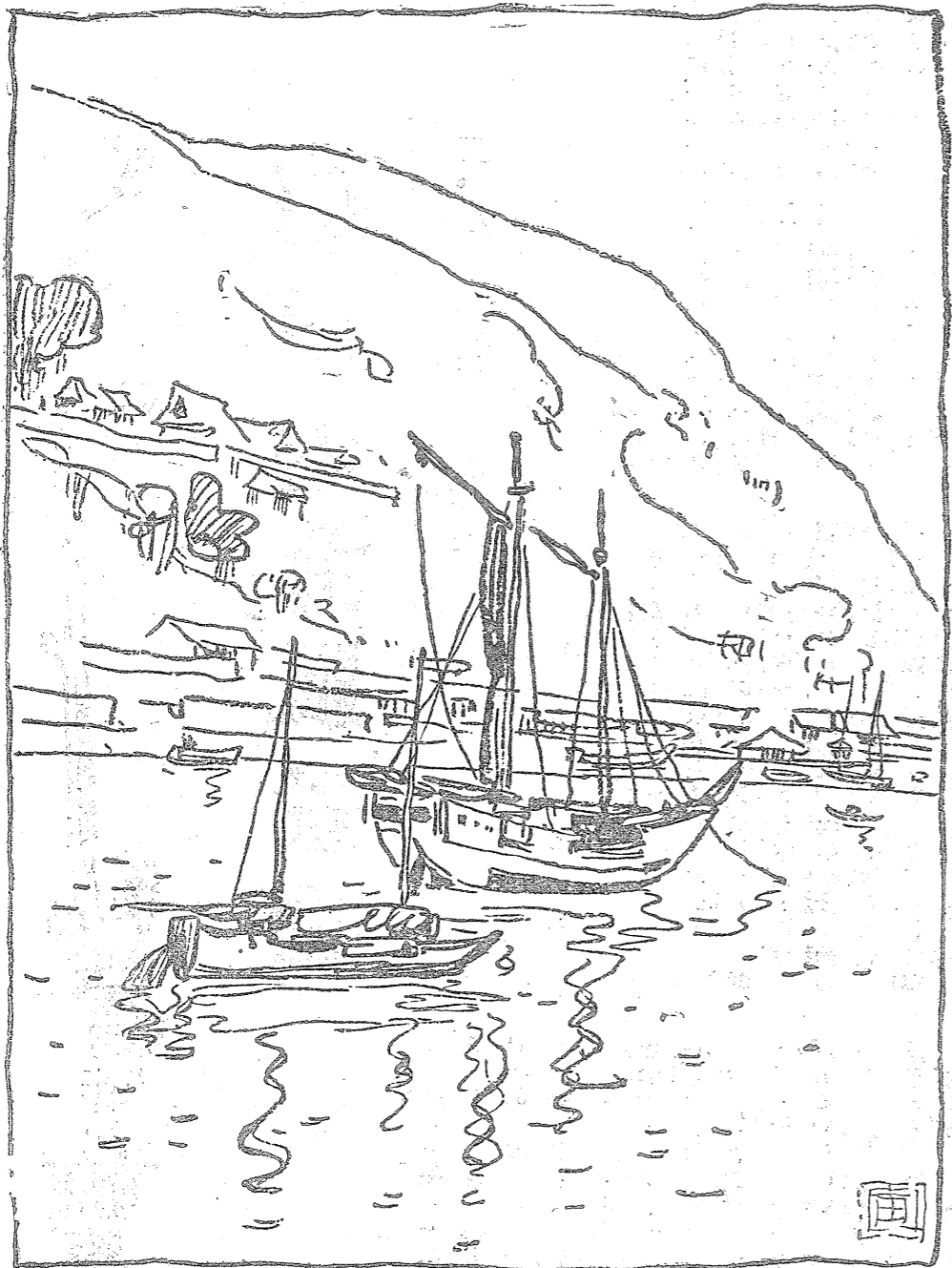
## 色彩の弱い瀬戸内

石川寅治

○瀬戸内海の景色は、概して春先の四月頃が最も好いやうに思ふ。夫れは瀬戸内の景色は平和的に、極温順しい感じに出来て居るから、季節なども極柔らかな春先の長閑な、空気がとも水蒸氣の含まれたやうな、靄などの深いやうな、ポーツとした柔らかい感じの時は、景色

と能く調和して、實に何とも言へない心地がする。されば瀬戸内海に遊ぼうとする人々は、此の季節を選ばれた方が、瀬戸内の瀬戸内たるところを味はふに最も都合が好からうと思ふ。此の時分に沖の方を見渡せば、水だか空だか解らない、所謂水天髣髴と云つたやうな、而して靄のかゝつた淡い色のポーツとした中か

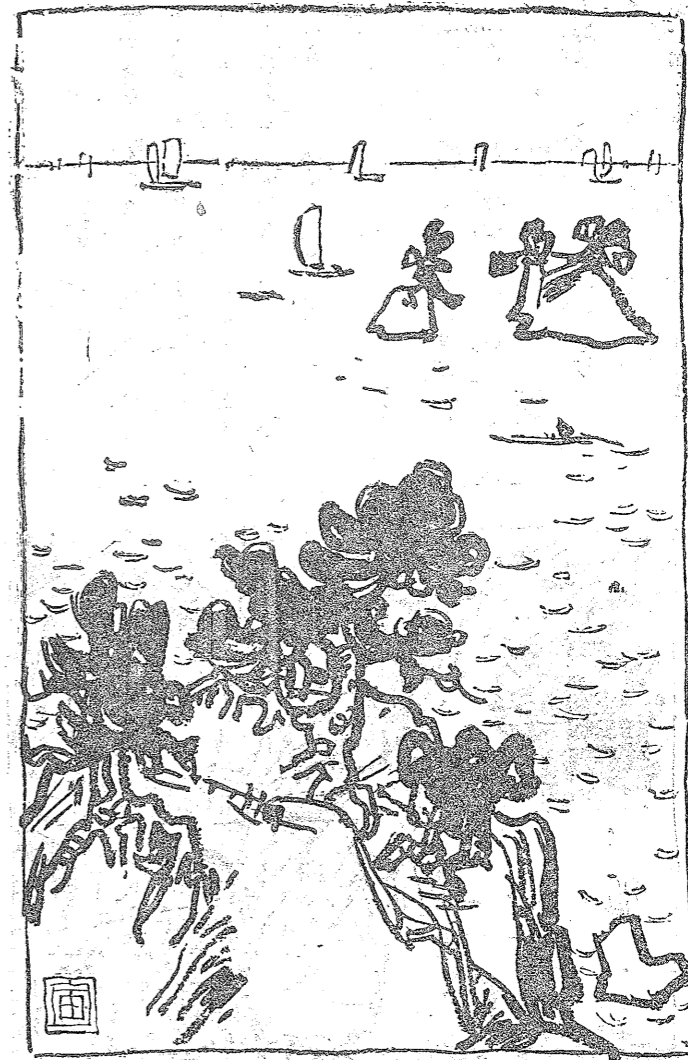
ら、帆かけ船が手近にブーツと現はれて来るなど、實に得も言はれない。又水面鏡の如く波なんか一つも立たない海の上を、船で通ると、島また島が現はれて来て、まるで夢のやうな感じがする。一體色彩の上から云つても、瀬戸内は強烈な色彩ではなくして、極弱い調子の、非常に穏やかな氣持ちの好い調子に出来て居る。鳥渡ホイストラアの畫のやうなところがあるやうに思ふ。併し季節の上から云つて、一概に春先と限つたことはなく、夏なども、朝とか夕方とか、月の晩たとか雨の過ぎし後とか、さう云ふ時には一



瀬戸内海風景論 (石川寅治)

種譽人がたい味ひがある。が、冬季に於ては、山陽道の沿岸などは氣候が暖かいから、避寒などに好いけれども、景色としては殊更取立て、云ふ程のことはないと思ふ。

○夫れで、須磨や明石や舞子、宮島などの附近の景色は、既に一般に熟知せられて、名高いところになつて居るが、是等



の名勝以外に於て、景色の毫も劣らない寧ろ夫れ以上の好い景色のところは澤山ある。鞆ノ津とか、尾ノ道とか云ふところの景色は、鳥渡他にはないやうな景色のやうに思ふ。

鞆ノ津は後に可なり高い山を控へて居つて、而して南が綺麗な海に臨んで居る

し、港の岸には土蔵造りの白い壁や黄色い壁などの建築物が並んで居つて、港内には帆かけ船が盛んに動いて居るが、是等の白い壁や船などが更に下の緑りの海に映つて居るところは、遠くから望むと實に美しいのでベニス景色が思ひ出される。而して海岸の巖の色、土の色は

黄いろくて、夫れが非常に明るい色で、海よりも明るく出て居て、夫れに緑りの松が生えて居る。而も斯様な島が無数にあつて、沖の方へ沖の方へと重なり合つて居るが、是れは單に鞆ノ津附近に限らない景色で、瀬戸内には到る處島が多く散在し、夫れが海よりも明るく出て、島々には面白い松があつて、島と島の間をば帆かけ船が來往して居るといふやうに出來て居る。彼の松島に於て見る趣きの處は到る處にあると思ふ。鞆ノ津は汽船のない時には、和船の輻輳する般盛の場所であつたが、近來汽船が出來てからは、港の規模が小さい爲め、大きな汽船を碇泊せしむることが出來ないのと、一方汽車が通らないのとで、汽車も通じ、港も大きくて汽船の出入に便なる尾ノ道に其の繁華を奪はれ、餘程寂びれて取殘された感じの所になつて居る。併し今日でも和船の輻輳することは、随分盛んではある。鞆ノ津の港外には、辨天島、仙醉島

と云ふやうな島があつて、陸から望むと、まるで庭のやうな氣持ちの好いところである。鞆ノ津の旅館の對山館と云ふ二階の欄干から眺めると、其の前を帆かけ船が舵の音をギイ／＼させて、朝に晩に往來する。而して向ふには辨天島が見え、何時まで眺めて居ても厭かない好い眺望である。

出入つた形だとか、或は沖へ沖へと段々薄く消えて行く島影だとか、小豆島なども遙か向ふに薄く見えて居るが、其の間を白い帆が如何にも鷗の浮いて居るやうに點在して走つて居る。

○ 屋島から東の方には、志度ノ浦だとか

五剣山だとか云ふ所があつて、其の間には鹽田がアテラ、コテラにあつて、鹽焼く煙が松風にユラれて行くのがなが／＼面白。すつと東の方に往つて屋島から三四里を隔てた所に、津田と云ふ所がある。其處は大きな古い松のある所で、而して濱邊は一體に白い明るい砂であつて、其

○ 尾ノ道なども夕方などには港の内輪が薄霧に閉されて、其の間に白い火や黄いろい火や赤い火や青い火やが、水に映つて、非常に綺麗に賑やかに見える。夫れ等の感じが凡て穩かな非常に氣持ちの好い感じを人に與へる。

松の田津

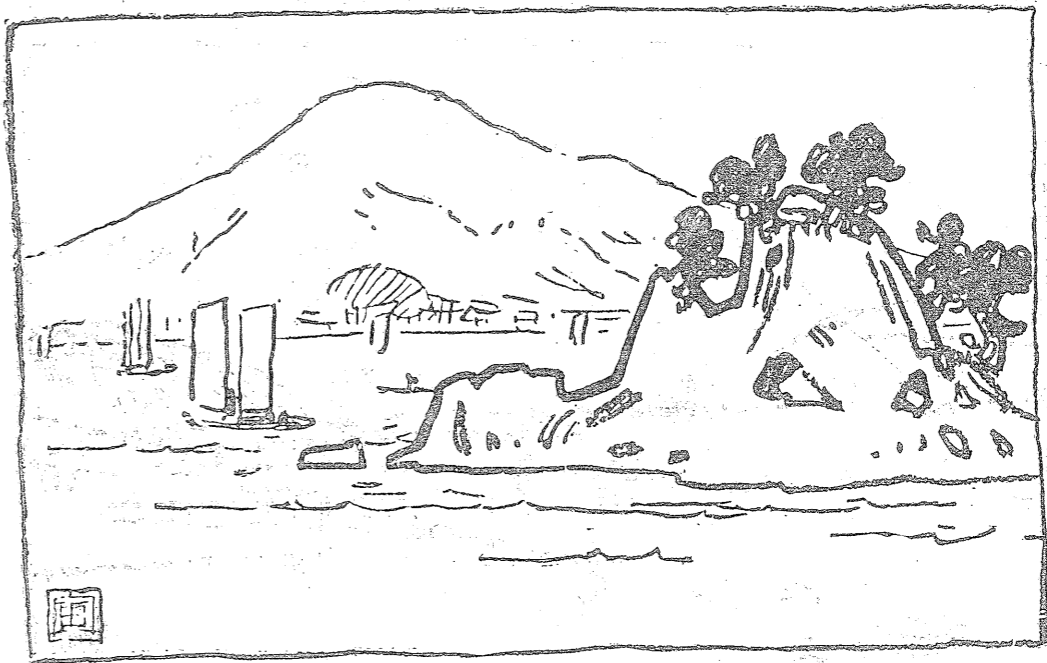
○ 夫れから屋島に上つて、内海の方を望むと、其の眺望は實に盛んなもので、殊に山の上から見ると、源平の戦争した跡などが、地圖を擴げたやうに見えて、昔の事が思ひ出され、感慨殊に深い。而して灣や崎などの



瀬戸内海風景論 (石川寅治)

處に古い大きな松の幹が無数に横はつて、恰かも龍が蟠まつたやうに盛んに根を擡げて居る。吾々の見た所では須磨や舞子の松以上であると思ふ。須磨や舞子の濱の松も、昔は好かつたかも知れぬが、今日は別荘などが多く出来て、一般の人の眺めを恣まうにすることが出来ない。又別荘の出来た爲めに餘程風致を傷つけた観があるが、津田の松にはそんなことはない。且つ松の幹は大きくあるし、幹の形だとか、根をあげて白沙の上に通つて居るところは、實に他では見ることの出来ないやうな面白いものである。惜しいことには今日尙ほ比較的不便な所であるが、だから、人に知られないのであるが瀬戸内の景色を探ぐるものは、一度は是非とも往つて見るべきところであると思ふ。

夫れから多度津と云ふ所も、讚

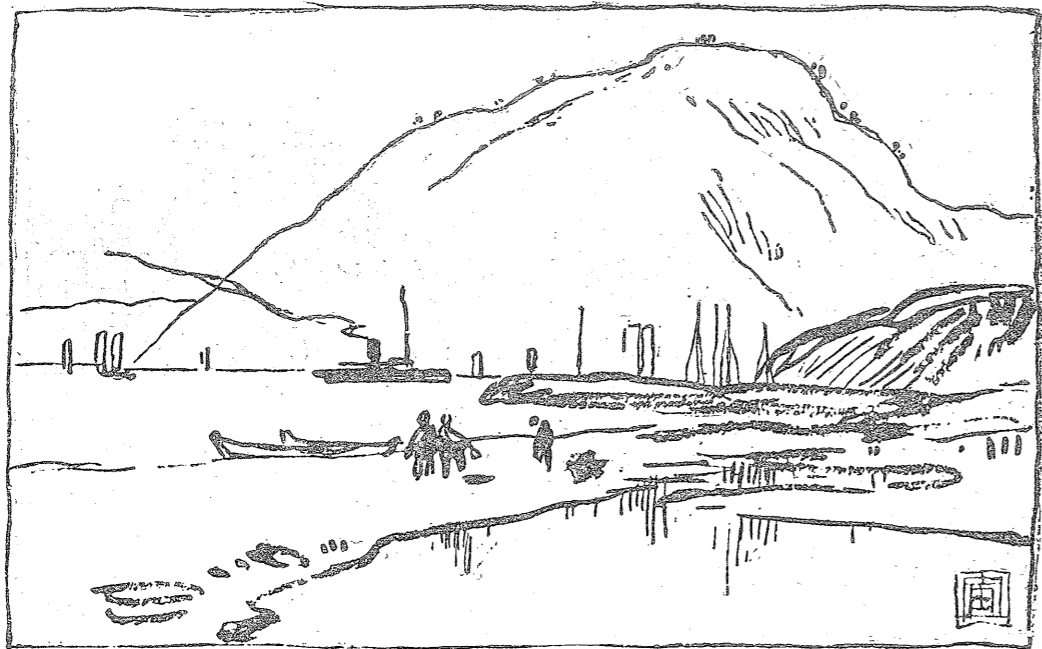


高松より小宮土(興居島)を望む

岐の要港で昔は和船の船着の盛んな所であつたさうだが、多度津の附近も景色として面白い。多度津の後の丘を磯岡山と云つて居るが、其處に上つて、多度津の港から其の附近の景色を眺めると、非常に好い景色である。讃岐の邊は一體松が到る處に多く、而して地味に適して居るためか、好む松が多いやうである。有名な高松の栗林公園などは殊に善い。其處は藩主の庭園を公園にしたものであつて、大變に立派な公園であるが、松の好いのが非常に多くある。尙ほ附近一體に山々島々を到る處松の樹が繁茂して居る。

更に西に往つて、今治邊になると、海が狭くなつて居るが、今治の西方約一里ばかりの海峡を來島海峡と呼んで居る。此の海峡は極めて狭いから、潮水の干満によつて非常の瀬が出来て、海水の渦を

なして流るゝ音が遠く聴える。此處には砲臺があつて、要塞地帯となつて居るから、無暗に寫眞を撮るとか、スケッチする譯にはいかない。又アチラ、コチラに燈臺が設けられてあるが、海峡が狭い故、船が通航するに危険と思はるゝ場所も少なくない。無論大きな汽船は通航することは出来ないもので、漸く瀬戸内海を通ふ小さな汽船が通るのに過ぎない。併し危険であるだけ船に乗つて居ると、景色も好くなく、面白くない。其處には種種の形をなした島が基布散在し、船は一の島を通過すると又一の島が現はれ、殆んど送迎に暇ない程で、少しも退屈するやうなことはない。



別府高崎山

て居ると云ふ。其處で、今尙ほ此の邊の漁夫や物好きの人などは、章魚で陶器を釣りに往く。元來備前の邊では章魚壺で章魚を捕るのであるが、是れは又章魚で陶器を釣ると云ふのである。夫れには先づ章魚を海の底に落して遣ると、其の中に章魚は海底で壺のやうなものに這入るから、是れを引上げると云ふ譯であるが、斯くして引上げた陶器は大變なもので、大に珍重して居ると云ふ。

夫れからモット西に往くと、瀬戸内通ひの汽船は伊豫の高濱に着くが、高濱は前に興居島を控へて居る。此の島は富士山に似て居て、なか／＼面白くない。其處で此の邊では高濱の小富士と呼んで居る。斯様に港の前に島が控へて居るので、冬季に於ても北風を拒いで、港内は常に静かである。景色の上から云つても、高濱から恰度好い

距離のところに、富士山の形をした島があつて、又富士山の裾野のやうに裾を長く曳いて、其の裾には人家が散在し、其の附近は大部分開墾されて、桃畑となつて居る。夏には水蜜桃が多く出来るが、殊に春先は小富士の麓に桃の花が一面に咲いて、遠方から眺めると非常に美しい。高濱から松山までは汽車が通じ、又温泉を以て有名なる道後までも、僅少の時間で往くことが出来る。

海の方から眺めると、讃岐の山は火山系に屬し、山容は多く圓錐形をなし、山配の急なるを見るが、伊豫に入ると、山容は全く一變し、山には非常に小皺が多い。ウルサイ程山の皺がある。伊豫の多くの山は吾々が見て何うも面白く思はないが、獨り高濱の興居島は多くの山と其の山容を異にし、非常に面白く出来て居ると思ふ。

四國から中國へ通ふ小さな汽船があるが、夫れに乗つて瀬戸内海を横断しつゝ、島々の景色を眺望するも、又一入の風趣

があると思ふ。瀬戸内海は實に無数の大小の島嶼が、碁布星羅して居つて、到處に種々の形をした島を見るが、船に乗つて此の邊を通過すると、實に厭きない程の變つた景色が眺められる。併し高濱邊から西に向つて九州路の方になると、大に其の趣きを異にし、島は少なくなり海は大きくなつて来て、九州の別府までは殆んど大海を航する感じがする。夫れ故時には此の邊の海が多少荒れることもある。

別府は瀬戸内海の中でも、一風變つた趣きのある面白い所である。此處は九州路であつて、今までの中國や四國の沿岸の感じとは大に趣きを異にし、後に控へて居る鶴見嶽は突兀とした火山系の山であつて、港や灣の形も雄大、豪放と云つたやうな趣きを存し、大友氏の城跡ある四極山は傲然として海岸に聳え居る、島と云ふものは殆んど無い。別府は温泉の豊富な所であつて、海邊でも田畑でも掘りさへすれば沸く。別府の町などでは湯よ

りも清水の方が得難いと云ふ風である。近年汽車の開通して以來、浴客も次第に激増し、日に盛々となりつゝある。而して別府の海岸には他に見ることのない珍らしい温泉があつて、其れは潮の干た時、海岸の砂を掘ると、直ぐ蒸氣が出るので、浴客は其の掘つた砂の中へ全身を埋めて、顔だけ出して居るのであるが、干潮の時分に海岸に行て見ると、アチラ、コチラに頭だけ出して埋まつて居るものが數多あつて、實に奇觀である。

瀬戸内海の遊覧には、是非とも船に乗らなければならぬが、一般の人は随分船に乗ることを厭ふ風があつて、殊に婦女子には多いやうであるけれども、瀬戸内海の船は比較的綺麗に出来て居て、船内の設備も又比較的整つて船客が退屈しないやうに出来て居る。而して乗つて行く海が極めて穏かであるから、普通の天候の場合であれば、何んなに船に弱い人でも、船量を感じるやうなことはない。まるで川か湖水でも渡るやうな氣持ちで、

船が動揺することはない。縦へ随分風の吹くやうな日でも、島と島とが離れたところを航海する時には風が當るの免がれまいが、一度島陰に入ると風は風が水面は鏡の如く平らかとなる。斯んな具合であるから、船を好まない人でも、決して心配することはない。瀬戸内海の平穩なることは、常に瀬戸内に浮んで居る和船を見ても知れるが、此處を乗り廻す和船は、房州や相模、伊豆で見るとは、其の構造を異にし餘程華奢に出来て居る、夫れは瀬戸内は海が穏かであるから、伊豆や房州で荒海を乗り廻すものと違つて、風浪と戦ふと云ふやうなことはないから、自然に優しく華奢に出来たであらうと思ふ。而して瀬戸内に於ては凡てのものが斯の調子で出来て居る。斯様に海が穏かであるのと、航海中には島島が現はれては消え、消えては現はれ、港や陸地の景も見る事が出来るし、又往來の船に遭ふと云ふやうな譯で、殆んど退屈するやうなことはない。殊に夏の夜などは、船に乗つて行くと、月などの

出た晩に於ては何とも言へない好い感じがする。若し嚴島などの邊を月夜に船を泛べて、漕ぎ廻はつたならば、其の感じは言語に絶ゆるものがあらうと思ふ。

兎に角瀬戸内海の景色は、平和な優美な長閑な感じに充ちて居る。雄大とか豪壯とか奇抜とか云ふやうな所はないけれども、實に人間の目を平和の方に楽しま

### 思ひ出づるまゝ

### 昇 曙 夢

瀬戸内海には特に觀光の目的で出掛けたことは一度もない。たゞ郷里へ歸る途中に當つてるので、其の往來に通過したことは何回もある。たゞそれだけのことだ。然し其度に此のあたりの景色に一度だつて心を惹かれなれないことはなかつた。其頃は此處を通るだけでも遙々郷里に歸る値ひがあると思つてゐたから

邊を旅行した折、所々内海沿岸の勝地に足を留めて、如何にも内海らしい、調子の軟かい長閑かな風光に見惚れたことがある。それが矢張り一昔も前のことである。だから今何處と決まつて纏まつた印象は残つてゐないが、其頃の日記など讀み返して、朧ろ氣ながら追憶のまゝをザツと書き記すことにする。